

業務用ナバナの品種検討

和歌山県農業試験場

目的

数年前から、県内では業務用ナバナの栽培が始まっており、現在約10haまで栽培面積が広がっている。しかし、現行品種の‘寒咲21号’は収量が少なく、収益性が低いことが問題となっている。

そこで、本試験ではより収量性に優れた品種選抜を目的に、品種ごとの収量を確認した。併せて、播種時期を変えることで、実需期である2月～3月に収穫ピークを合わせられるかについても検討した。



ナバナ収穫物

試験方法

供試品種

CR花かんざし(丸種)
CR華の舞(丸種)
CR栄華(サカタ)
寒咲21号(サカタ)(対照)

耕種概要

播種日(月/日)	9/2、9/7、9/12
定植日(月/日)	9/26、9/30、10/16
畝幅	135cm
株間	30cm(千鳥植)
調査・収穫期間	平成28年11月28日 ～平成29年3月24日

施肥設計

元肥:N:P:K =
17:21:16/10a

追肥:定植30日後から2
～3週間毎に1回あたりN
量2kg/10a

試験結果



図1 規格品および規格外品収量

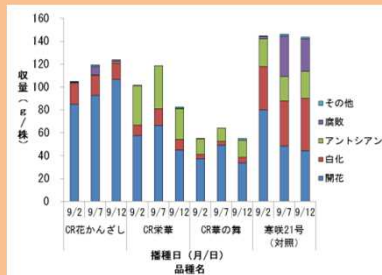


図2 規格外品収量の内訳

品種名	播種日(月/日)	規格品(g/株)	規格外品(g/株)				
			開花	白化	アントシアニン	腐敗	その他
CR花かんざし	9/2	102.1	84.9	18.0	0.7	0.9	0.3
	9/7	116.9	92.8	16.9	1.0	7.1	1.5
	9/12	178.6	106.4	14.5	1.3	1.5	0.0
CR栄華	9/2	143.9	57.5	9.1	34.5	0.1	0.2
	9/7	168.1	66.4	14.5	37.7	0.0	0.0
	9/12	188.5	44.8	9.5	26.7	0.5	1.0
CR華の舞	9/2	162.9	37.6	3.6	13.4	0.0	0.2
	9/7	183.1	49.3	3.1	11.7	0.0	0.0
	9/12	163.0	33.9	4.8	15.0	0.0	1.2
寒咲21号(対照)	9/2	96.1	80.0	37.9	24.4	2.0	0.3
	9/7	88.1	48.6	39.5	21.0	35.2	1.8
	9/12	125.4	44.5	45.7	23.5	28.3	1.7

表1 規格品および規格外品収量

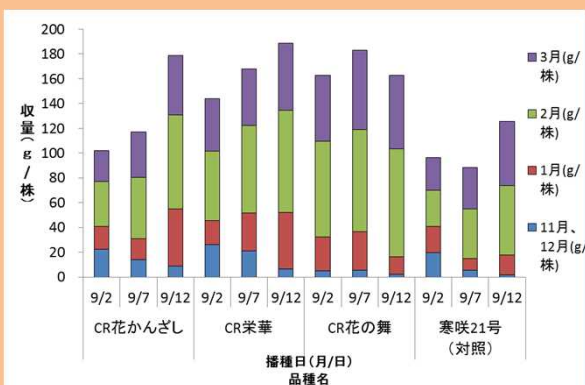


図3 規格品の時期別収量

品種名	播種日(月/日)	11月、12月(g/株)	1月(g/株)	2月(g/株)	3月(g/株)
CR花かんざし	9/2	22.4	18.4	36.3	25.0
	9/7	13.8	17.3	49.5	36.3
	9/12	8.8	46.1	76.0	47.7
CR栄華	9/2	26.3	19.0	56.2	42.4
	9/7	21.1	30.3	71.0	45.6
	9/12	6.6	45.4	82.8	53.8
CR花の舞	9/2	4.9	27.6	77.1	53.3
	9/7	5.2	31.1	82.6	64.1
	9/12	2.3	14.0	87.3	59.5
寒咲21号(対照)	9/2	19.4	21.4	28.9	26.4
	9/7	5.2	9.5	40.2	33.2
	9/12	1.6	16.2	55.9	51.7

表2 規格品の時期別収量

まとめ

- 規格品収量は、全ての試験区で対照区を上回った(図1、表1)。
- ‘CR栄華’の「9月12日播種」では規格品収量が最も多かった(図1、表1)。
- ‘CR華の舞’の「9月12日播種」では規格外品収量が最も少なかった(図1、表1)。
- ‘CR花かんざし’、‘CR栄華’は播種時期を遅らせることにより規格品収量が増加する傾向が見られた(図1、表1、2)。
- 播種時期を遅らせることにより2月、3月の規格品収量が増加する傾向にあった。